

令和6年度（2024年度）公共事業再評価調書

（様式3）

【大規模増額等地區】

		基準年月日		令和6年8月1日							
調書番号	06-09	所管部	農政部	作成責任者	農村振興局農地整備課長 熊井 隆二						
				担当係	水田整備係（内）27-568						
I 基本事項（基準日時点）											
事業種別	道営土地改良事業費（農地整備事業（経営体育成型））										
ふりがな地区名	ひがしほろにせし 東蕨岱西	市町村名	当別町	総事業費	1,402 百万円						
負担割合	国	55.0%	道	32.5%	市町村	1.6%	その他	10.9%			
	771 百万円		456 百万円		22 百万円		153 百万円				
事業目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ●良質米の安定生産及び転作作物の生産性向上を図る。 ●農作業効率の向上及び水管理の合理化により労働時間の縮減を図る。 ●換地により農地や農業施設の再編整備を行い農地の集団化を図る。 ●担い手への農地集積を図る。 ●事業実施により安全・安心な食の生産をささえる。 <p>【アウトカム】等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事業実施前（H30年（2018年））の担い手農地集積率（受益面積に占める担い手が耕作する面積の割合）は92.4%だが、本事業を実施することにより事業完了翌年には100%と上昇が見込まれる。 										
事業概要	当別町の南西に位置する本地区は、水稻を中心に小麦や大豆等の転作作物を作付けしており、生産性の高い農業基盤の確立を目指している。そのため、現況50a程度の区画を1.8ha程度の規模へ大区画化し、併せて排水改良のために暗渠排水や排水路の改修など総合整備を行う。	工事費内訳	受益面積 117ha → 116ha 受益戸数 16戸 用水路 60m → 42m 排水路 3,291m → 3,431m 区画整理 113ha → 111ha（整地、暗渠排水、密土、用水路） 測量設計費 用地補償費 電柱移設ほか 換地費	(百万円)	(百万円)	(百万円)	前回評価	今回評価	増減額		
				13	30	17	73	136	63		
				702	1,067	365	180	140	△ 40		
				8	11	3	14	18	4		
				計	990	1,402	412				
総合計画での位置付け	総合計画の体系	基本方向	政策の柱	政策の方向性	施策名						
		潜在力発揮による成長	(1) 食 【目標】国内外から求められる魅力的で質の高い食を持続的に生産する北海道	力強い農業・農村の確立	農業農村整備の推進						
特定分野別計画等での位置づけ	施策目標・方針	【計画名：第6期北海道農業・農村振興推進計画 P23】 ア 生産基盤の強化 スマート農業技術や高収益作物の導入を容易とするほ場の大区画化や農地の排水対策など、農業の生産力と競争力の強化に向けた整備を推進する									
		関連する指標	食料自給率（カロリーベース） 令和12年度（2030年度） 目標値：268%								
II 公共事業評価経過											
事業経過	事業採択	着手	評価年度	完了予定	経過年数	事業費	総事業費(a)	道負担額	当該年度事業費	累計事業費(b)	進捗率(b)/(a)
	事前評価又は当初	R1 (2019)	R1 (2019)	R8 (2026)			990	322			
	前回再評価										
	今回評価	R1 (2019)	R1 (2019)	R6 (2024)			R8 (2026)	5	1,402	456	257
変更理由・内容(概要)		(1) 測量精査による用排水施設延長の増減 (2) 道路横断工法の変更による増額 (3) 仮設工の追加による増額 (4) 整地工法の変更による増額 (5) 現地発生土利用不可に伴う購入土への変更 (6) 家屋調査取りやめによる減額 (7) 区画割り変更に伴う電柱移設費の増額 (8) 自然増及び消費税率変更による増額									
III 事業採択前の状況											
1. 事業採択に至る経過と背景	本地区は、平成8年から平成14年にかけてほ場整備事業で用排水施設及び暗渠排水の基盤整備を実施しているが、用水施設は泥炭質土壌に起因する不等沈下から漏水等による用水量の確保や維持管理に苦慮しており、排水施設は切深不足による暗渠排水の機能障害から農地の湿害要因となっており改修を必要としている。また、農地は事業により整備した被覆型暗渠の排水効果が亡失していることや小区画圃場が点在していることで農地の汎用化並びに営農機械の効率的な作業に支障となっている。このため、本事業の整備により地域農業の更なる活性化に向け、農地の汎用化・流動化を促進させ規模拡大と高収益作物の作付増により、農家経営の安定を図るため、平成29年(2017年)に篠津中央土地改良区から事業採択に向けた要望が出された。										
2. 事業検討の経緯(住民への把握等)	<ul style="list-style-type: none"> ●H29年(2017)4月 篠津中央土地改良区から石狩振興局へ整備要望 ●H30年(2018)4月 振興局で地域の整備要望を踏まえ調査を開始 ●H30年(2018)11月 土地改良法に基づき事業申請 ●H31年(2019)3月 事業採択 										
3. 事業効果及ぼす地域・対象	●当別町 受益面積117ha→116ha、受益戸数16戸										
4. 関連する事業	事業名	事業主体	事業期間	事業費(百万円)	事業内容						
	●該当なし										

IV 事業の実施状況

1. 進捗状況	(1) 事業実績及び今後の計画													
	施工(工種)区分	工事内容	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8			進捗状況	事業費(百万円)
	用水路	L=42m											0%	30
	排水路	L=3,431m			L=1,692m				L=1,739m				47%	136
	区画整理	A=111ha			A=80ha				A=31ha				64%	1067
	測量設計費	調査・設計			実施設計等								96%	140
	用地費及補償費	物件補償			電柱移設				電柱移設				82%	11
	換地費	換地処理	換地原案作成	*	一時利用用地指定・換地処分	*			一時利用用地指定・換地処分	*			31%	18
(2) 進捗状況														
●事業計画の変更はあるものの概ね予定どおり進捗しており、今後の実施に当たっても特に大きな支障となるものはない。														

b a: 概ね予定どおり実施している。 b: 事業計画・期間等を変更し実施する。
c: 問題が生じ、実施に支障をきたしている。

2. 事業効果	経済効果の内訳(百万円)		費用の内訳(百万円)		備考
	項目	R6 現在	項目	R6 現在	・効果は、「事業ありせば」「事業なかりせば」の比較による作物生産の増減、作物品質の向上、営農経費及び維持管理費の節減、災害防止による農業資産の被害防止又は軽減のほか、国産農産物の安定供給に対する「安心感」を貨幣換算により算出。 ・「土地改良事業の費用対効果分析マニュアル」(農林水産省R6改正)に基づき算出。 ・効果及び費用はR6(2024)に現在価値化し、「整備期間+完了後40年間」で算出。 ・農業用排水施設(区画整理内用排水含む)と接続する上位用排水施設等にかかる費用を「関連施設」として計上している。 ・維持管理費節減効果は、現施設の維持管理費に対して、再整備した場合の維持管理費の増減及び事業を実施せず現施設がなくなった場合の維持管理費の増減の合計より、マイナスとなる。
	作物生産効果	832	農業用排水施設	226	
	品質向上効果	288	区画整理	1,367	
	営農経費節減効果	1,283	関連施設	680	
	維持管理費節減効果	△57			
	災害防止効果	12			
国産農産物安定供給効果	266				
合計(B)	2,624	合計(C)	2,273		
B/C (R6現在)	B-C	前回算定年度 : H30年度(2018年度)【事業採択】 前回算定時B/C: 1.30(合計(B): 1,759 合計(C): 1,352)			
1.15	経済的内部収益率	変更理由 ・営農経費節減効果算定時の用水なかりせばシナリオの変更による総便益の増加 ・事業費増加に伴う総費用の増加 ・諸係数・単価等の時点修正による効果額の変更 ・国産農産物安定供給効果に係る算定方法の変更による効果額の増加			

3. コスト縮減などの取組	取組の項目	取組内容	縮減額(百万円)
	施工の最適化	整地工法にて反転均平工法を採用	3

V 評価

1. 必要性	●本地区は、道営圃場整備事業により農業用排水の一部と換地を用いた区画整理による基盤整備が実施されたが、ほ場や農業用排水路の一部区間において機能が低下しており地域の農業生産継続の支障となっている。このため、本事業の整備により地域農業の更なる活性化に向け、農地の流動化を促進させ規模拡大と高収益作物の作付け増により、農業経営の安定を図る。 ●事業の必要性に変化はなく、着実に事業の推進を図る必要がある。		
	a	a: 事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する。 b: 着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である。 c: 着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある。	

2. 事業を推進する上での課題	(1) 環境上の配慮及び課題		
	●本地区は、新篠津村が作成した田園環境整備マスタープランにおいて環境配慮区域に位置付けられている。 ●下流河川の生態系への配慮のため、降雨時の施工中止など、濁水が発生しないよう施工を行っている。		
	(2) 事業推進に対する地域の動向・意向		
3. 事業達成の見込み	●今後の事業実施に当たって特に大きな支障や課題はなく、予定年度での事業達成が見込まれる。		
	a	a: 現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。 b: 課題はあるものの達成は可能である。 c: 大きな課題があり達成には相当の困難が予想される。	

4. 対処方針	●事業の必要性に変化はなく、地元からの早期完成要望も受けているため、令和8年度の完成を目指して事業を継続する。					
	a	a: 継続	b: 終了	c: 休止	d: 中止	
	事業期間変更の有無	無	事業内容変更の有無	有	総事業費変更の有無	有

VI 備考

1. 評価履歴	【評価結果】 ・事前評価：該当なし ・再評価：該当なし
	【特記事項】
2. その他の取組事項	

補足資料

VII 事業計画変更

事業経過							事業費			
	再評価	事業採択	着手	評価年度	変更年度	完了予定	総事業費 (a)	当該年度事業費	累計事業費 (b)	進捗率 (b)/(a)
事前評価 又は当初		R1 (2019)	R1 (2019)	/	/	R8 (2026)	990	/	/	/
変更①	1回目	/	/	R6 (2024)	R5 (2023)	R8 (2026)	1,402	257	899	64%
変更②										
変更③										
変更④										
変更⑤										
変更⑥										
変更⑦										
変更⑧										
変更⑨										
変更⑩										

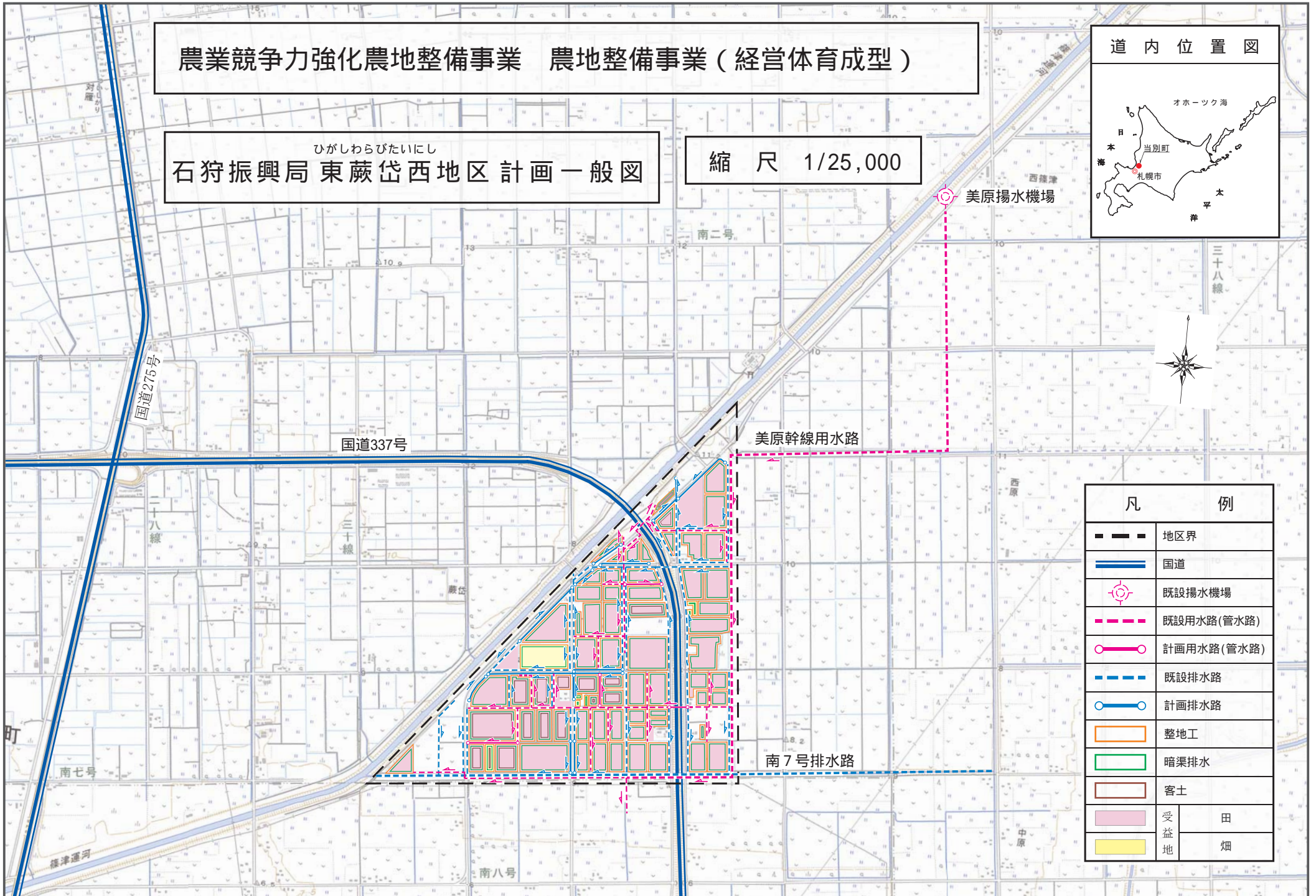
変更理由・内容	変更①：事業内容・総事業費の変更
	<ul style="list-style-type: none"> ・用水路について、道路横断工の施工方法を開削工法から推進工法に変更したことによる事業費の増 ・排水路について、工事用道路の地耐力不足に伴い、敷鉄板による仮設工を追加したことによる事業費の増 ・区画整理（整地）について、突均し工法から標準切盛工法に変更したことによる事業費の増 ・区画整理（暗渠排水、客土）について、工事用道路の地耐力不足に伴い、敷鉄板による仮設工を追加したことによる事業費の増 ・区画整理（用水路）について、現地発生土に石礫の混入が確認されたため、埋戻土を購入土に変更したことによる事業費の増 ・測量試験費について、環境影響調査を取り止めたことによる事業費の減 ・区画割り変更に伴い、電柱の移設が必要となったことによる事業費の増 ・資材、労務単価の上昇や消費税率の変更による事業費の増

農業競争力強化農地整備事業 農地整備事業（経営体育成型）

ひがしわらびたいにし
石狩振興局 東蕨岱西地区 計画一般図

縮尺 1/25,000

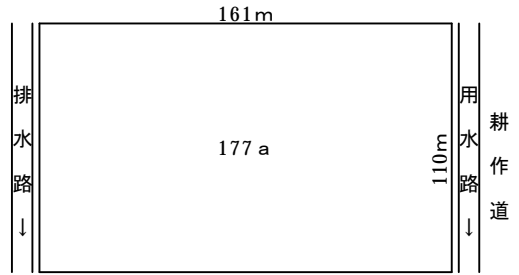
道内位置図



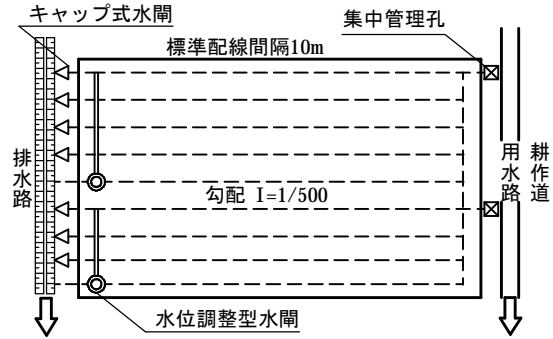
凡 例		
	地区界	
	国道	
	既設揚水機場	
	既設用水路(管水路)	
	計画用水路(管水路)	
	既設排水路	
	計画排水路	
	整地工	
	暗渠排水	
	客土	
	受益地	田
		畑

標準構造図

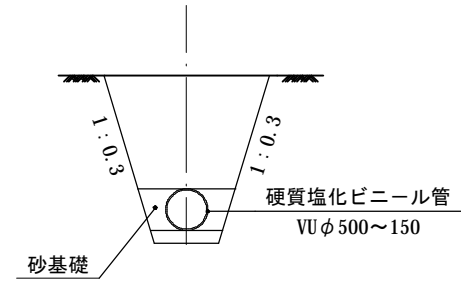
区画整理工標準区画



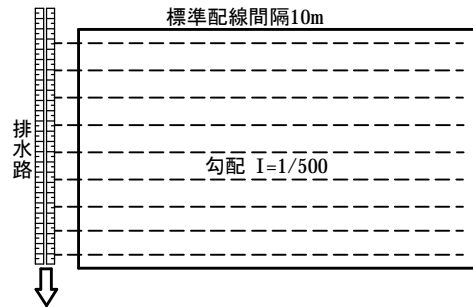
暗渠排水(田)標準配線図



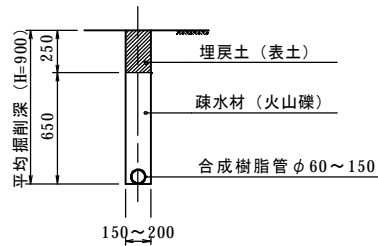
用水路標準断面図



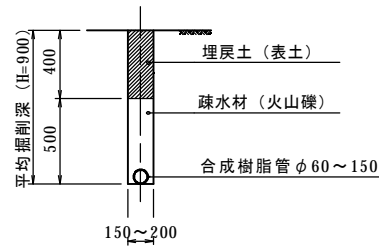
暗渠排水(畑)標準配線図



暗渠排水(田)標準断面図



暗渠排水(畑)標準断面図



排水路標準断面図

B=0.3, H=0.45m, Z=1:1.0

